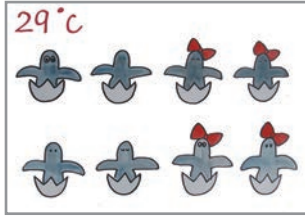


砂の中の温度によって、性別がかわる!?

ウミガメは、卵の発生途中の環境温度によって性別が決まります(温度依存性決定)。アカウミガメの場合、オスになる確率とメスになる確率がほぼ等しくなる温度は、29℃前後だそうです。29℃を境に高いとメス、低いとオスが産まれる確率が高いといわれています。数℃の違いで、全てがオスカメスの一方になることもあります。



紙芝居「アカウミガメがあぶない」より
(ウミガメネットワーク作)

産卵時に泣いている!?

ウミガメは産卵時に目から涙を流しているという話をよく聞きます。これは感情による涙ではなく、生理現象によるものだといわれています。エサを食べる時に、一緒に海水も飲み込んでいるため、体中の余分な塩分を塩類腺という器官から排出して調節しているのです。



紙芝居「アカウミガメがあぶない」より
(ウミガメネットワーク作)

アカウミガメの産卵から子ガメの脱出まで

※写真はアカウミガメの保護啓発と調査を目的に撮影されたものです。

1シーズンに数回の産卵を行う個体もいます。

ウミガメの産卵巣

1回の産卵あたり約110個の卵を産みます。産卵巣の底まで深さがありますが、産みだての卵はやわらかいため割れません。



卵を産むのに適した場所を探します。適当な場所を見つめると、四肢を使って体が納まる程の広くて浅い穴を掘ります。これを『ボディビット』^{どうし}といいます。

その後、後肢をショベルのように使い、産卵巣を掘ります。

ウミガメ上陸

5～8月にかけて、母ガメが産卵のために上陸します。
※通常、産卵は夜間です



産卵巣を埋めるウミガメ



後肢を使い、砂で穴を埋めます。その後、四肢で砂をまきちらし、どこに卵を埋めたかわからないように隠します。

海に帰るウミガメ

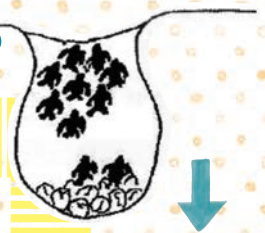


産卵を終えた母ガメは、海に帰っていきます。上陸から海へ戻るまでの時間は、約1～2時間です。

卵から孵化した子ガメ

約2か月後

卵から孵化した子ガメは、砂をかきわけ地上を目指します。

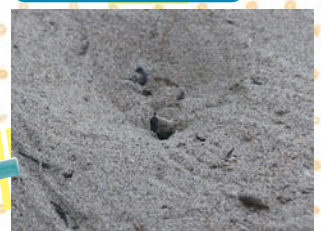


地表にあらわれた子ガメたち



子ガメが卵から出ることを『孵化』、砂から出ることを『脱出』といいます。

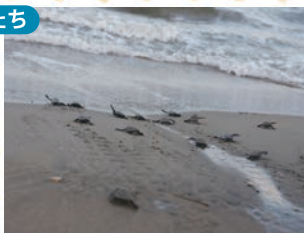
子ガメの地上脱出開始



ボソソと子ガメの頭が見えました。小さな石と見間違えるほどの大きさです。※通常は夜間です

海に向かう子ガメたち

子ガメは海流に乗ってカリフォルニア沖などへ移動し、そこで成長します。大きくなったら日本へ産卵のために戻ってきます。



砂浜に泉が湧き出すように力強くはい出す子ガメたち。

子ガメが海へ帰るように

脱出した子ガメは、明るい方へ向かう習性があります。子ガメは陸側にくらべて海の方が明るく見えるので、海へと帰ることができます。しかし、外灯などの光に誘導され、海へ帰るのを妨げられることもあります。

子ガメに照明を当てたり、フラッシュ撮影をしたりすることはやめましょう。



紙芝居「アカウミガメがあぶない」より
(ウミガメネットワーク作)

上陸した母ガメを発見したら

上陸した母ガメを発見した場合には、触ったり、近づきすぎたり、照明を当てたり、大きな音をたてたりしないように注意しましょう。

卵を産むのに適した場所を探している母ガメは、おびえて産卵せずに海へ帰ってしまうこともあります。落ち着いて産卵できるように、静かに見守ってください。

